

平成 26 年度第 2 回鎌倉市医師会立産科診療所運営協議会 会議録

運営協議会を次のとおり開催しました。

(敬称略)

協議会名称	鎌倉市医師会立産科診療所運営協議会	
開催日時	平成 27 年 1 月 27 日 (火) 19 時 30 分～21 時 00 分	
開催場所	鎌倉市役所 第 3 分庁舎 講堂	
委員 出席者	医療法人社団柏綾会 綾瀬厚生病院 母子センター センター長	篠塚 孝男
	東京大学 医科学研究所 先端医療社会コミュニケーションシステム社会連 携研究部 特任教授	上 昌広
	あずさ監査法人横浜事務所	田坂 真子
	特定非営利活動法人 小児臨床研究支援ネットワーク 理事長	名取 道也
	弁護士	増本 敏子
	特定非営利活動法人 鎌倉市市民活動センター運営会議 理事長 県立高校、私立高校非常勤講師「食」担当	渡邊 公子
医師会・市出席者	鎌倉市医師会 副会長	井上 俊夫
	鎌倉市医師会 理事 (産科診療所担当)	黒川 民夫
	鎌倉市医師会 理事	高橋 博文
	産科診療所 所長	高山 照雄
	鎌倉市健康福祉部長	柿崎 雅之
次回開催予定日	平成 27 年 7 月下旬	
問合せ先	鎌倉市健康福祉部 市民健康課 健康づくり担当 電話番号 0467-61-3979	
会議記録	要約	

1 開会

会長 平成 26 年度第 2 回鎌倉市医師会立産科診療所運営協議会を始めます。皆様お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。

事務局 出席委員は 6 名で、過半数を超えておりますので、本協議会設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、会議は成立しておりますことをご報告します。

また、昨年度、会議に出席していただいた報酬費についての源泉徴収票を皆様の席に配布させていただきますので、よろしくお願いいたします。

この後の進行を篠塚会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

2 平成 26 年度第 1 回会議議事録

会長 それでは、さっそく次第の 2 に入ります。前回の議事録については、委員の皆様には、事務局から既に配布していると思います。特段ご意見も無かったようなので、こちらでよろしいですね。

事務局 ありがとうございます。議事録については市のホームページに掲載させていただきたいと思えます。

3 議題

(1) 平成 26 年度の運営状況について

会長 議題は、平成 26 年度の運営状況、平成 26 収支見込、今後の運営体制等について、その他と 4 つあります。それでは、今後の運営体制について、始めていきたいと思えます。資料が 6 つございますので、資料のご説明をお願いします。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

それでは、平成 26 年度の運営状況等について、ご説明いたします。ティアラかまくら事務長の安田でございます。

まず、資料 1 の分娩件数について、今年度分につきましては、12 月末までの件数で、171 件です。住所別内訳は、市内の方は 109 人で全体の 64%、里帰り出産が 42 人で 25%、市外が 20 人で 12%となっています。ちなみに、平成 25 年度は市内が 67%、里帰りが 22%、市外が 12%の割合になっていました。里帰りが若干増えています。市内が減っている分、里帰りが増えており、月平均 19 分娩となります。帝王切開につきましては、このうち 19 件を行っています。月 2~3 件です。この内、緊急で行ったものは 7 件です。母親の出産時の年齢につきましては、一番多いのは 31~35 歳で 41.6%でした。

事務局 続きまして、資料 2-1 をご覧ください。これは出生連絡票を基に、鎌倉市の新生児の出産地域別の割合を記載したものです。表の左上は、平成 19 年度、つまりティアラかまくらがオープンする前年度の状況で、当時は市内で出産できる場所は湘南鎌倉総合病院のみで、出産数 1,274 件のうち、湘南鎌倉総合病院は 357 件で、全体の約 28%が鎌倉市内の出産でした。約 70%は市外での出産でした。

次に、左下の表をご覧ください。平成 25 年度になりますと、鎌倉市内の分娩施設は、湘南鎌倉総合病院に加え、平成 21 年 2 月開業したティアラかまくら、そして平成 25 年 9 月に開業した矢内原医院の 3 施設となりました。その結果、出産数 1,172 件のうち約 54%にあたる 626 件が市内での出産となりました。これは平成 19 年度の約 2 倍です。

更に、右下から二番目の表。平成 26 年度は、4 月から 12 月までの 9 か月間の数値となりますが、矢内原医院が通年稼働したこともあり、市内出産割合は約 59%と過去を含めまして最大値になっています。

なお、右下の参考のとおり、平成 22 年度から 24 年度まで、ティアラかまくらは市外の新生児を含め出産件数 300 件以上を記録していましたが、平成 26 年度末の見込みは 214 件で、ピーク時から 100 件以上の減少となることを見込んでいます。以上です。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

続きまして、資料 3 についてです。分娩予約件数について 4 月から 9 月は 129 件、前年度に比べまして、35 件の減少で、21.3%減です。10 月から 12 月までは 50 件となり、前年度と比べ 13 件

で20.6%の減少です。1月から3月は48件で同じく前の年と比べ、10件で17.2%の減少となっています。

続きまして、資料4に移ります。

平成26年度の分娩件数の見込みは、1月から3月の分娩予約件数が48件ということですので、平成26年度の年間では、前年度を下回る214件程度を見込んでいます。この計算は1月から3月の予約の約9割が実際の分娩に至るであろうという想定の中ではじき出した数字です。

続きまして、資料5に移ります。

外来診療件数等です。外来診療件数が全体で4,057件となり、前年同期に比べて374件、8%の減となっています。その内訳は、妊婦健診が3,241件で全体の79.8%となっています。前年度に比べると17%減少しています。一か月健診は227件で全体の5.6%となり、前年度より30%の減少です。二週間健診は今年度から始めたものですが、153件で全体の3.8%でした。母乳外来は158件全体の3.9%、今年度の7月より開始した婦人科健診は199件で全体の4.9%、予防接種は60件で全体の1.5%となっております。入院人数は約38人で、ベッドの利用率としては46.7%となっています。

続いて、資料6に移ります。

各種教室等開催状況についてです。妊娠初期10週以降と後期32週以降の二部制で開催している両親教室については、36回開催で279人の参加がありました。市からの受託事業であるはじめまして赤ちゃん広場は、9回行いまして75組の参加がありました。市の新生児等の訪問事業の協力として行っている新生児訪問としては、102件を実施しました。従来、初産婦のみを対象にしておりましたが、平成25年12月から経産婦も対象として実施していますので、37件増え、率としては56.9%の増加となっています。その他の各種教室は、記載されているとおりです。ある程度期待通りの参加は得ているものだと考えています。

会長 ありがとうございます。平成26年度の運営状況について、資料1から6までご説明いただきましたが、何かご意見等ありますか。

矢内原先生のところで、始めた影響かお産は減少しているなという感じはしますけれども。

委員 予想されていた件数とは、どうなのでしょう。他の病院ができれば、ある程度減るのは当然なわけですが、予想の範囲内なのでしょう。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

平成26年度の分娩件数に限って申し上げますと、265件の見込みで予算を立てておりますが、それに比べるとやはり落ち込んでいます。予想以上に件数としては、減少しています。

委員 非常に大きな落ち込みは、どのように分析していますか。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

まず、一つは全体として近隣での分娩数が伸びていません。市の資料にもありますが、若干年度によって、多少の増減はあるものの増えている要素がない中で、施設が増えたということで、それぞれ分散してしまったという結果だと思っています。やはり、大船方面で若干の落ち込みと、栄区からの患者さんが減っているのは、実態としてあります。率からいくと、旧鎌倉地域での利用者は減っていないといえますか、全体の中での割合からすると増えたかなど。大きくは落ちていないと思っています。大船に矢内原医院ができたのと、ここ数年の間に藤沢市にも二か所、新しい施設ができたということで、なかなかティアラが伸びる要素がなく、逆に若干ずつ分散していくという

傾向でした。

会長 施設が増えればある程度、予想できることですね。予想よりも落ち込んだ感じですね。

委員 子供が増えるような施策として鎌倉市は何をしているのですか。

事務局 一つは、お母さんの働きやすいように、保育園の待機児童対策ということで、そこを強化しているということです。他にあるかということは、見当たらないのが現実です。

委員 女性の立場で、保育園ができたから、子供を産もうという気にはなりません。その辺の支援策というのが必要ですね。

会長 鎌倉の待機児童はどれくらいですか。

事務局 100 数十くらいです。

会長 生んだ後に、子供を預けて働けるという場所があれば、お産も少しは増えるのではないかと期待しています。

委員 三つの施設は、どのようなイメージで利用者に映っているのですか。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

正確には調査していませんが、矢内原医院においては口コミで伝わったものを聞くと、新しくて出産用に作った施設ということで、やはり印象はいいと思われれます。新しいところを利用してみたいという心理もあると思います。実際に、矢内原医院は、ティアラをよく知っているのので、ティアラをベースに開設し、ティアラの良さも知り尽くしたところで運営していると思います。

委員 出産費用に差はないのですか。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

それほど大きな差はなく、矢内原医院の方が、少し高いと思います。

委員 湘南鎌倉総合病院は、どうなのでしょう。あまり件数は減っていないようですが。

事務局 資料 2-1 にあるように、やはり矢内原医院が開業したことによりまして、ティアラと同じように湘南鎌倉総合病院の分娩件数も減っているということは事実です。影響は受けていると思います。

委員 総合病院を選ぶという利用者も多くいると思う。

会長 湘南鎌倉総合病院が、将来的に山崎に新しい分娩施設を作るとなると、増えるよりも減ることが予想されますね。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

そうですね。増える要素は考えられない状況ですね。

我々の立場からは、以前の数字に戻すことはかなり難しいと思っておりますが、減り具合をどこまで、抑えられるかということを考えています。

委員 現実的には、赤ちゃんの数が増えるはずがないので、客単価を上げるしかない。

特定のクリニックだけ補助金をくれというわけにはいかないだろうから、そうする他にないですよ。普通に考えて単価を上げていくしかないと思います。湘南鎌倉総合病院とティアラと同じように、両方減っている。おそらく、横浜とかも均等に減っているのですよね。

会長 旧市内のお産を吸収した場合、どうなのでしょう？

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

ティアラで分娩した方の地域別の割合から行くと、平成 25 年度で鎌倉地域が 33%、腰越・七里ヶ浜・西鎌倉が 6%、深沢が 10%、深沢はちょうど分かれるところです。今でも深沢からは 1 割程度の方がきています。大船が平成 25 年度 13%で、それ以前が 14%前後でしたので 1%程落ちてい

ます。玉縄は、交通の便もあり、若干低くて、平成 21・22 年度は 5.5～6%近い数字があったのですが、平成 25 年度は 4%です。これは、湘南鎌倉総合病院と矢内原医院が影響していると思われます。市外ですと、逗子が 4%程度で、葉山が 3.4%、場所にもよると思いますが、逗子葉山は鎌倉と変わらない便利さだと思います。里帰りがこのところ、少しずつ増えてきて 2 割を超えています。平成 25 年度は 22%、26 年度が 23.4%なので、若干増えています。ちなみに旧鎌倉はこれまでは 100 件前後の分娩者がいましたが、平成 25 年度は 88 件に落ちています。全体的に落ちていますので、今年度も同じくらいになると思います。退院時に行っているアンケートによると、ティアラを選んだ理由は、便利だから近いからということが上位を占めています。次には、インターネットとかの評判、知人とか家族のよかったよという勧めだと思います。

会長 では、平成 26 年度の収支見込みについてご説明をお願いします。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

それでは、資料 7 でございます。

平成 26 年度の収支見込みですが、当初予算で見込んでおりました 265 件を大きく下回る 214 件程度となる見込みです。マイナス 51 件です。収入は大幅な減少が予想されます。診療収入の中の自費入院収入部分が一番大きな影響を受けます。分娩一件当たり 595,000 円という数字ではじき出しておりますので、51 件減るということは、単純にその分減少となる見込みです。当然支出もそれに伴って減る部分もありますが、固定的な経費が多いため、比例した形で減少には至らないことになります。また、人件費はこの状況ですので、退職者の補充を控えています。それにより、人件費を抑えていますので、この部分については今の段階での限界だと思っています。今後は人件費についても考えていかなければと思っています。現在、助産師が 2 名、看護師 1 名がスタート時点より減少した形になっております。収支見込みについて、最終的には、3,300 万を超える赤字が見込まれます。当初予算で、市の補助金を見込んだ数字から、さらに 3,300 万を超える赤字が見込まれる状況です。このようなことから、運営費補助金の追加支給を要求していこうと思っています。

会長 市の補助金が 5,870 万円程で、さらに 3,330 万円近くがまたマイナスなっているということで、9,000 万を超える赤字ですね。

委員 人件費のところの諸手当は減っているのですが、給与で増えているというのはなぜですか。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

常勤の減っている部分は当然、給料と時間外、看護手当、夜勤手当に影響が出てきますので、非常勤で補うとすれば、給料という形で出すことになります。当初予算と大幅に給与の部分と手当ての部分が変わってきてしまうということで、中々正確な数字で予算が組めていません。申し訳ないのですが。

委員 諸手当が減った分、給料が増えているということですね。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

常勤・非常勤の給料が入っていますので、常勤の人数を減らすと非常勤でカバーすることになりますので、給料が増えてしまう。非常勤を増やさないと、常勤でやろうとすると時間外あるいは夜勤の回数が増えてしまうので夜勤にかかる手当が増えています。現段階では、非常勤を補充しないで頑張っておりますので、どうしても夜勤の回数が増える分の補充は非常勤で賄っています。

委員 非常勤の方の確保というのは、大変ではないのですか。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

助産師については、数が少ないということもあり、大変です。今務めていただいている方は、ロコミ的な形で来ていただいている方が多いです。

会長 決算見込みの3,330万円は市議会からはまだ何も言われていないのですか。

事務局 この3,330万円は今度の2月議会の補正予算で要求していく形ですが、今までは決算数値を見ると、当初予算よりも増えているということはわかりますので、内容を聞かれる程度で済むと思います。

今回は、9,000万円を超えて、もうすぐで1億円という数字になることを考えると、大変厳しいと思います。何かしらの指摘を受けるだろうと予想されます。

委員 具体的には、どのような指摘がでるのですか。

事務局 当初ピーク時の300件を超えるような分娩件数の時には、市の補助金は賃借料などの固定経費の一定の額を支援しているかたちだったものが、その当時から倍近くになっているということから、金額的なものと分娩件数が減ってきているあたりで、少し指摘があるのではないかと考えています。

会長 300件くらいお産があるときは、ちょうど機械のリース代と土地の賃借料などで、折り合いがつくような形で、同じだったのですよね。

委員 他の医院ができることは止められませんからね。

事務局 鎌倉市内の環境が、平成21年当時より良くなっています。また、来年4月ないし5月には、湘南鎌倉総合病院のバースセンターが開設予定ですから、数字的にはティアラを含めて65床となりますので、平成19・20年度が26床であったことを考えると倍以上になります。隣接する藤沢市にも69床増えている状況になりますので、鎌倉湘南エリアに限っては、出産環境自体が変わってきているという状況です。

委員 お産する方には、安心できる環境でよかったことですが、ティアラを考えると、あまり良くないですね。

会長 婦人科健診、予防接種を始めても収入的にはたかが知れています。

委員 どちらかというと、将来的な事ですよ。色々なことを積み重ねて信用を蓄積するという、今すぐに収入を上げるというものではないですね。

委員 議会ではどちらの方向なのですか。

事務局 議会ではまだ具体的な質問は出てはいませんが、矢内原医院が平成25年9月に開設されて、まだ1年くらいしか影響を終わっていないので、本格的な議論はこれからになると思います。

委員 200分産で9,000万円くらい入れている場合は、一人45万円くらいを補助しているという。

市民病院を持っていないから、1億くらい入れても仕方がないという見方もありますよね。実際にティアラを民間でやるべきだという考えもあると思いますが、そうするとやりきれないと思いますよ。まだ湘南鎌倉総合病院の影響もありますからね。これはもう政治判断するしかないのですよね。

部長 平成28年4月にバースセンターができ、当初より分娩施設が倍になり、環境は選べて、産めないということはないので、市民サービスが低下することはないです。それに見合った財政負担をティアラにどう特化していくのかというボーダーラインがあり、平成28年度以降の話になると思います。そのあたりの状況がわかるまでは、何とも言えません。それが、わかるまではティアラの存在価値は十分あると思います。ティアラを医師会の協力を得て立ち上げた当初より、社会状況が変わってきているので、その辺のところを視野に入れながら考えていかなければいけないと思ってい

ます。

委員 矢内原医院は、増えているのでいいですが、ティアラは他からとってくるか単価を上げるしかない。これからのことは、極めて難しい。

部長 これからの話だが、当初5,000万円、今は1億円近い。たとえば、5,000万円あって500人だとすると、一人10万円ずつ単純に一支援ができるようになるのであれば、その辺との兼ね合いだと思います。

会長 市立病院というのは、どこでも赤字なのですか。

委員 どこも大赤字ですごいことになっていますね。

会長 1億円の財政負担というのは重いのかどうなのか。

委員 重くはないですよ。どこも何十億となっています。

会長 大きい病院ではなくて、お産をしているだけの施設で1億円というのは大きいと考えるのか、仕方がないと考えるのかですね。

委員 自治体が何らかの医療サービスを住民に提供しているという言葉で言えば、総合病院であろうが、分娩施設であろうが同じ。多少ずる言い方ではありますが、そういうことをシンボリックに捉えることができれば、より小さい規模でより少ない予算の投入でやれているからいいでしょうという論理も成り立つのかもしれないですけど、市議会がお考えになることでしょう。

委員 鎌倉市のような財政のいいところで、1億円くらいで少子化対策していると思えば高くはないですね。ただ、市民がどう考えるかですね。一クリニックに1億円入れているとなると高いと考えるかもしれないが、少子化対策を重点的にやるということであれば、やらざるを得ないでしょう。引き上げるというのは、極めて難しいですよ。

部長 現時点においては、鎌倉市内は平成28年以降施設が増えるので、件数が上がってくるのであれば、新たな場を作って対策に寄与しているということになりますので、その辺の様子を見ないとわからないですね。

委員 あと数年はみないとね

委員 東京都が保育士に一人20,000円つけましたね。年末に介護にも20,000円つけたんですよ。一人2万もつけると、保育士が大量に東京に移住してしまいました。いわき市なんか保育士がいなくなったとか、次の手を打つと思っていますが、東京都は少子化対策と介護対策に400~500億くらい予算付けました。このあたりも考慮しないといけないですね。

部長 社会保障費をどうやって押さえていくのかといったことも考えながら、判断していることが重要だと思います。

委員 鎌倉市のような財政のいいところでは、投資しないといけないのではないですか。

委員 すべてシーリングがかかっているんで、財政状況は良くない。

委員 総論的には、話題になっているのは自治体自体の消滅で、その根源になっているのは人口減少であって、そのもとになっているのは出産数の低下ですから、自治体が1億2億で対策をしていると考えれば、当然認められる話だと思いますけどね。

委員 将来像としては、鎌倉は若い人が増えて欲しいので、何とかしてほしい。

ティアラそのものの評判というのは、今どうなのでしょう。

委員 そんなに悪くはない。

委員 たまたま、私の知っている人がティアラで出産するのですが、とてもお友達の多い人なので、

もっと人を連れてきてくれればなと思います。

会長 分娩数の減少の割には、里帰り出産が横ばいだし、評判がいいのだろうと考えられる。両親教室などいろいろされていますが、ティアラで出産した人だけではなくて、市内の人を対象にしているのですか。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

ティアラの分娩ではない方も含んでいます。

会長 3,000万円も出して、お産しかやってないのと言われれば、こういうこともやっていると言えますよね。

委員 矢内原先生がティアラのことを知り尽くして、始められているとのことですが、具体的にはどうということですか。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

具体的には、院長先生のお話を伺って、母乳外来や助産師外来もそうですし、取り組みがティアラでやっていることをベースにして行っていると、先生ご本人もおっしゃっています。

委員 それがもしいい評判を産む手段であるのであれば、その上に行く手段を考えればいい訳です。パイの取り合いが、パイが小さいところで、取り合いになるのであれば、逆にとっていくにはどうしたらいいのかという作戦を考えていくのがいいと思います。

委員 ずっと住んでいる我々からすれば、矢内原先生と聞くだけで知名度は高い。

委員 知名度というのはとても重要で、里帰りということで考えれば、両親などがどこどこがいいという意見を言う可能性が高いので、その年代への知名度を上げるにはどうしたらいいのか。ティアラの知名度を上げるということは、今までの何とか教室には入っていないですよ。その年代の方々が集まるようなところにティアラのパンフレットを持っていくとかね。

会長 色々な教室は、ティアラの中でやっているのですか。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

基本的には、ティアラの中で行っています。今、色々な教室の拡大などを考えながらやっていますが、基本はティアラの中で休診日を使ってやっています。教室を広げるというところでは、出張教室を考えています。玉縄地域や大船地域など、宣伝効果もあるし、湘南鎌倉総合病院と同じように外に出ていこうと考えています。

委員 逆の発想として、ティアラという分娩施設の中に妊婦さんと関係ない人も取り込むということもいいと思います。

ティアラというのは妊婦さんの施設とされている。事実そうです。しかし、妊婦さんと関係ないような少し年齢層の高い方をよんできて、全然関係ない人をティアラの中に入れてやるということで、ティアラの存在を知ってもらうことができますね。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

今、行っている教室の規模であれば、可能です。

委員 ティアラの場所貸しになるけれど、ティアラを知ってもらうという機会になるわけですから。

会長 例えば、おじいちゃんおばあちゃんの孫育て教室とかね。それをティアラでやれば、今度孫がお世話になりますということにつながるかもしれない。

委員 市民にティアラのことを知ってもらって、悪いことはないですから。

委員 まだまだティアラの存在を知らない人はいます。

委員 地道にやるなら、宣伝活動がいいと思いますけどね。

委員 鎌倉市民に役立っていますということが一つと、将来的に人数が増えているということが一つですね。

委員 市議会が1億円も当然でしょうと言ってもらうためには、議員の支持者がティアラの重要度を理解していれば、有力ですから、年齢層が高い人にも知名度を上げたほうがいい。

委員 高コストということで、補助金もどこまであげたらいいかという市がそのまま直営事業でやった方がさっぱりする。

事務局 旧鎌倉は、ティアラのみですから。

委員 市民から見たらわからないですよ。

委員 ティアラがなくなっても、矢内原医院と湘南鎌倉総合病院で吸収できるのですか。

事務局 来年の春も新たに19床増えますので、ベッド数だけでいえば単純に増えます。

委員 矢内原医院で、全部引き受けても大丈夫だと思います。むしろ、待っていると思います。

委員 平成26年度を見ると、鎌倉市内のお産が59%でティアラが13%ですから、46%は他の施設でやっています。市民のためにティアラはいかに貢献しているか、市民のためにこういうことをしていますよとアピールする必要があります。議員によるかもしれませんね。

事務局 全ての議員が反対というわけではなく、設立するときに尽力された議員もいますし、必要だという議員もいます。旧鎌倉にも施設が必要だという議論も出てくると思います。

委員 議員は必要ないとは言えないでしょう。

委員 普通にみて、1億円くらいで、保険を掛けるという意味では、これくらい議会でもめる話ではないと思いますけどね。あとは、自己規律だけちゃんとやってよという話です。

部長 財政の効率化をするために、どんな努力をしているのかということや少し増やすためにどんなことをしているかが問われるところです。

委員 分娩する方にとっては、ゆとりのあるティアラで産んだほうがいい。そのあたりは、満足度が高くなっているはず。

委員 ティアラのお母さんたちの会は順調なのですか。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

そうですね。引き続いて月に2回会合を行っています。

会長 リピーターを増やすという点では、二回目の出産は安くするとかやっていますが、ティアラはやってないですね。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

その案も出ましたが、そうすると値上げした効果が薄れるのでやっていないです。

会長 3万円安くしたって、60万円とるのであれば、1件増えれば57万円ですよ。安くする割には、あまりダメージはないと思う。

委員 一人目がティアラで、二人目が他の医院の方はいるのですか。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

います。やはり、新しいところで産んでみたいという方がいます。

委員 新しい効果というのは、もって三年ですから。矢内原先生の新しい効果はそんなに長くはもたない。

委員 中身が良ければ、別です。

委員 それは別な効果ですから。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

できたばかりで、ホテルのようできれいだという評判ですね。

委員 平成 28 年に開設される新しいところは、助産師がやるのですか。

会長 湘南鎌倉はほとんどを助産師がやっているのではないですか。何もなければ、医師は立ち会わないのではないですかね。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

ティアラは、必ず医師が立ち会います。湘南鎌倉はフリースタイルなので、希望で和室なども選べるようです。

委員 平成 28 年度に開設予定のバースセンターも一時的に受けるかもしれないですけどね。

会長 助産師だけで分娩をして、何かがあれば、医師が駆けつけるという形ですよ。

委員 鎌倉市と湘南鎌倉総合病院は仲良くやっているのですか。

部長 救急はほとんど湘南鎌倉総合病院です。

事務局 お世話になっているのは市民の方であって、市としては補助金をほとんど入れていません。

湘南鎌倉総合病院を利用しているのは、鎌倉だけでなく、藤沢、逗子等、他の市も担っています。

会長 資料 8 について

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

平成 21 年のティアラかまくら開設以降、藤沢南部地域にいくつかの分娩施設が開設され、鎌倉市民の藤沢市での分娩が増加しました。さらに、平成 25 年 9 月には、12 床の分娩施設が大船に開設されました。さらに、平成 28 年には山崎に 19 床の参加診療所の開設が予定されています。社会全体の出生数が増えていないという現状で、ティアラかまくらの分娩取扱い数の大幅な減少をもたらしています。分娩件数の確保につなげるべく、サービス内容の充実を図ることによる利用者の満足度向上を目指すとともに診療内容の新たな取り組みを行っています。分娩件数の減少に伴うベッド利用率、外来診察件数の低下を補うとともに、地域における子育て支援への貢献度を高めようとするものでもあります。通院のしやすさの他にインターネットの診療内容を含めた評判が大きな要素となっていますので、診療内容、サービスの充実は大変重要と考えています。また、知名度が低いと聞いていますので、各種媒体を使った広告宣伝によって、認知度を高める努力も行っています。

具体的には、次に書いてありますが、産科診療の充実としては、母乳外来の拡大。当院分娩に限らず、他院の分娩者の診療も行っています。助産師外来については、豊富な助産師を活用して、回数を増やしています。更に、今年度からの取り組みとして、新生児の二週間健診を始めました。中々利用が少ないのですが、産後ケアへの取り組みとして、他院分娩者の初診の受け入れは、増えてきています。新生児訪問の拡大として、初産婦だけだったものを経産婦にも拡大しています。産科診療については、できるだけ窓口を広めて、ティアラの分娩者以外でもケアしていこうと手を広げているところです。矢内原医院は、分娩予約者以外は妊婦健診をしないと聞いています。混んでいるということもあるでしょうが、ティアラはティアラでの分娩予約者ではない里帰り分娩者の妊婦健診のみというのも行っています。できるだけ市民の希望に答えたいと思っています。

二番目として診療内容の拡大として、大人の風しん・インフルエンザの予防接種、さらに婦人科診療を 7 月から行っておまして婦人科一般、がん検診の実施をしています。年齢層が高くなるので、逆に言うと先ほどの里帰り分娩やその家族の分娩施設として利用していただくことに繋がる

ように、できるだけ丁寧にやっていきたいと思っています。

三番目として、ここ数年取り組んでいます各種教室を拡大しています。新たに始めたのはフューチャーマザーレッスンで、将来のお母さんになる方を対象に今年度から2部制で2回開催しています。できれば、回数を増やせればと思っています。また、ティアラだけで実施するのではなくて、各地域に出張して実施できるように企画しているところです。

更には、宣伝広告ということで、衛生時報に、月一回発行を基に広告を載せています。子育てナビきらきらにも、「妊娠がわかったら」というページに掲載をしています。その他にもいろいろな雑誌あるいは売込み紙に広告を出しています。一昨年から行っていますが、バス車内のストップランプ部分にも広告も出しています。その他チラシやポスターも作成しています。中々広告については、費用の面と効果の面とで、見極めが難しい面があり、色々なところに出していけば、知名度は上がると思うのですが、広告費もかかりますので、非常に難しいところがあると考えています。以上です。

会長 各教室のお知らせというものは、定期的に出るのは衛生時報だけですか。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

他に市の広報誌にも掲載しています。宣伝効果は低いですが、色々な広告を載せている面があり、そこの紙面に掲載しています。衛生時報につきましては、年に一度、年間計画ということで各教室予定を掲載しています。結構反響があります。

会長 せっかく行っているのだから、派手に宣伝したほうがいい。

委員 学習センターなどにもチラシを置いてもらっていますか。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

学習センターにもルールがありますので、なかなかこちらの思うようにはいかないですね。

委員 市からの補助金の科目というか費目は、一項目になってしまうのですか。

事務局 そうですね。

委員 例えば、子宮頸がん検診は、分娩とは関係ないのだから、鎌倉市の健診業務として分けてしまえば、目立たなくなる。新生児訪問というのは、虐待防止としてそっちの費目を出すことはできないのですか。

事務局 現時点でそこまで考えたことはないと思います。かなりの金額を予算に乗せて、それが実績として続いているので、それを分解してティアラにというのは、議論はしないといけません。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

がん検診については、医師会に委託した中から、まとめて支払われたものが入ってきます。新生児訪問も市の協力事業ということで一件当たりいくらという形で出ています。

委員 費目を変えないといけませんね。

委員 ティアラは産科がなくなったため開設したクリニックで、またなくなったら困るので、保険という側面が市役所は強いですね。原因は、医師不足につきるので、人件費率は非常勤がいるから高いですね。市民の方が納得すれば、やりやすくなると思います。認知度が高まれば、皆さんもやりやすいですね。市民さえ納得すれば、いいと思う。

委員 市は、少子化対策は色々な手をうっているのですか。

部長 基本的には、保育園の増設ということで待機児童対策を重点的に実施しています。

事務局 小児医療費の助成を早い時期から行っています。

委員 鎌倉市への県とか国とかの補助金のルートはあるのですか。

事務局 わずかな数十万しかないですね。

委員 国は散々少子化対策とかにお金をつぎ込んでいるのに、市に回すとかそういったことはないのですか。

部長 ないです。

事務局 そういうものがあれば、市としてもやりやすいですね。

委員 子供の医療費は、目立つ割にはそんなに高くないし、市としてはやりやすいですね。始まった時の経緯をもう一度、市民に知ってもらってやった方がいいと思いますよ。

事務局 我々もオープンにしていきたいと思っています。

委員 医師の数が多ければ競い合うので、低コストになりますよね。四国とかはそうですけどね。そういうことを説明すれば、市民は納得すると思います。次世代に、このインフラを持ち越すのか。

会長 最後に、その他の取り組みについてお願いします。

医師会（鎌倉市医師会立産科診療所 事務長）

その他の取り組みとしては、平成 26 年の 4 月から分娩費を 5 万円上げまして、実際にこれまでの平成 25 年度は一人当たり、551,717 円だったのが、平成 26 年度の 4 月～12 月は、609,729 円という費用負担になっています。

この 1 月から産科医療補助金制度の改正があり、掛け金が 30,000 円だったものが、分娩機関が出すのですが、実際のところ保険からおりる一時金に 30,000 円が入っていて、それが 16,000 円という負担に変わりました。ご本人の負担が 14,000 円軽くなっています。

これはまだ正式な依頼ではないが、鎌倉市医師会の役員から横須賀市医師会へ鎌倉市医師会が産科診療所をやっているので、ぜひまわしてくれという話はさせていただいています。

横浜栄区の栄共済病院婦人科が今は産科をやっていないのですが、そこのドクターが 2 人非常勤で来てもらっているという協力関係があります。さらに患者さんをこちらに紹介してもらっています。

会長 鎌倉市では、分娩一回いくら補助していますか。

事務局 普通分娩の時に保険から 420,000 円です。健康保険組合から出ています。

会長 609,000 円というとびっくりしますが、420,000 円出ているそうですから。

会長 時間が過ぎてしまいましたが、最後に、何かありますか？

委員 とてもいい事業なので、頑張ってくださいたいです。

会長 そうですね。それでは、これで終わります。

以上